

# 笠岡・井原・浅口圏版

## 偉人編

### 阪谷朗廬(井原市)



瓦をふいた木造の校門には伝統校の威厳が漂う。現在の興讓館高にある「興讓館」の扁額は日本資本主義の父と称される実業家・渋沢栄一がしたためた初代館長阪谷朗廬(1822〜81年)の交友関係の広さを垣間見

る。53年、一橋家の領地だった井原市西江原町に郷校として創設された興讓館の館長に就任した。渋沢のほか長州藩士の久坂玄瑞らとも交流。廃藩置県後は上京し、福沢諭吉らも参加した日本初の学術団体明六社に参加した。同市美星町の庄屋に生まれ

## わがまち **こ** がすごいんじゅ

る。6歳で父が住む大阪に移り、大塩平八郎に師事した。母の看病のため郷里に戻って同市芳井町築瀬に桜漢塾を開塾。教えずには「東洋のピール王」と呼ばれた馬越恭平らがいた。

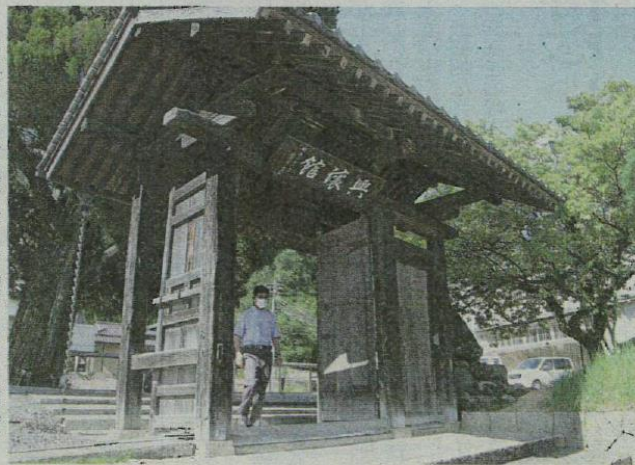
31歳で興讓館長に着任すると、江戸に学んだ儒学者として名をはせていた朗廬を慕う入塾生が遠方からも集まった。66年に一橋家の農兵募集のため西江原村を訪れた渋沢とも意気投合。交流は後々まで続き、四男・芳郎が渋沢の次女の琴子を妻に迎えたことで渋沢家とは縁戚関係になる。

明治維新後は広島藩に3年仕えた後、上京。明六社では最年長でありながら精力的に寄稿するなどした。

信義や礼節を説いた「白鹿洞書院掲示」。朗廬が興讓館の校是とした朱子の教えは、朝礼で

**メモ** 興讓館高の校門 井原市西江原町。井原線井原駅から北東へ徒歩約15分。山陽自動車道等岡インターから車で北に約20分。同高(0866@0124)。

## 信義説いた興讓館長



興讓館高の校門。扁額の校名は朗廬がむつまじい関係を結んだ渋沢栄一がしたためた

生徒により唱和されるなど現在でも建学の精神として受け継がれている。井原地域3市2町は、教育や郷土史に詳しい市教委文化課芸術、学術、政治など、さまざまな分野で偉業を成し遂げた人も漢学を放棄せず若者の教育に物をも多く輩出している。地域が努めた朗廬の姿勢は時代を超え育み、地域に愛される人物を顕て広く尊敬を集めている」とす 彰する。

シリーズ「岡山学 ふるさと再発見」は、電子版「山陽新聞デジタル(さんデジ)」で各エリアの掲載記事をまとめてご覧いただけます。

## 岡山学 ふるさと再発見

(この記事は山陽新聞社の許諾を得ています。8月4日付 山陽新聞朝刊に掲載されました。)